

## 幼児期から児童期の教育へ

鳴門教育大学 木下 光二

### 1. 教育課程（幼小連携）研究開発

- ・平成 10 年～ 13 年 附属小学校研究開発「子どもの未来を拓く教育課程の創造」 小勤務
- ・平成 13 年～ 15 年 附属幼稚園研究開発「幼小連携の教育課程開発」 //
- ・平成 18 年～ 19 年 保育研究「保育の質を問う」と幼小連携 幼勤務

### 2. 見えない幼児教育

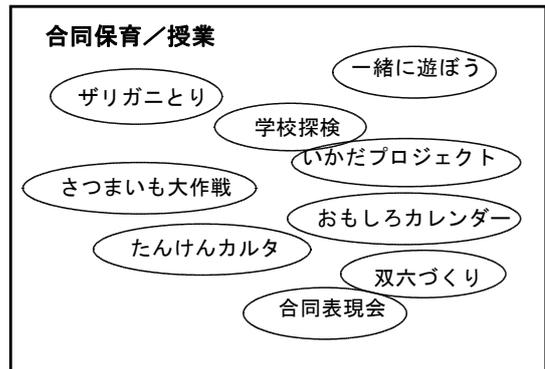
- ・子どもが見えない ex) 朝の持ち物
- 遊びが見えない ex) 教室からいなくなる子ども
- 環境や教材が見えない 小 教科書やテキスト（紙媒体や映像）  
幼 花，虫，水，土，（自然物） 紙，木片（具体物）
- ・子ども観や評価観のずれ 糊やはさみ 下手（小）？ or 上手（幼）？  
見えなくて当然？ 小 保育を見たりつくったりする枠組みが無い  
百聞は一見にしかず？ 見てもわからない → 保育実践，保育参観より参加
- ・必要とされるもの  
幼 保育の可視化，説明責任  
小 保育原理や保育理念の理解 → 教育内容や方法の改善  
行 幼児教育を核とする教員養成課程や研修，免許（更新）制度の検討  
ex) 鳴門教職大学院 小学校課程における幼稚園参観や保育参加

### 3. 小学校研究開発「子どもの未来を拓く教育課程の創造」

- ・教科の枠をはずした小学 1 年生のカリキュラム スタートカリキュラム？  
子どもの興味や生活と結びついた学習活動  
教える → 育てる，引き出す  
教科の横断，活動や体験の重視，教室から外へ  
連携 → 指導方法や内容ばかりか教科そのものの改善
- ・実践例  
数 「いくつといくつ」「ふえたりへったり」 ※資料 1  
ex) 学校探検（生活）で見つけた白い石から  
「たし算とひき算」「いろいろな形」  
ex) 公園探検で見つけた花や虫，もの  
言葉 「ひらがな探検隊」 ex) 1 文字『は』『め』，2 文字『はな』『いし』…  
「カルタづくり」 ex) 学校探検からカルタづくりへ 幼小で  
「カタカナ探検隊」「漢字探検隊」…
- ・幼稚園で行う教科学習 「30 までの数」 幼小で ex) カレンダーづくり ※資料 2  
「3 つの数の計算」 幼小で ex) サツマイモの収穫
- ・子どもが時間割を決める教科学習 算，国，音，図

#### 4. 幼稚園研究開発「幼小連携の教育課程開発」

- ・楽しい，夢中になる，安心感  
互恵性，継続性  
一緒に遊ぶ，一緒につくる，一緒に学ぶ  
既存のカリキュラム  
エピソードで語る  
幼 期待や憧れ，イメージ  
小 教科の学びと関係性



- ・遊ぶ 遊具遊び，サッカーや積み木  
つくる いかだ，家（牛乳パック）  
見つける 学校探検宝物，クイズやオリエンテーリング  
書く かるた，クイズ，クイズの答え，双六，  
数える さつまいも（収穫），牛乳パック（家）， ペットボトル（筏） ※資料3

#### 5. 接続・連携のレベル

レベル0	連携の予定や計画がなにもない
レベル1	連携を始めたいのだが，何から始めていいのかわからない
レベル2	年1，2回の交流や研修会をしている
レベル3	年数回の交流をしているが，カリキュラムはできていない
レベル4	交流も充実し，カリキュラムもできている
レベル5	できあがった交流活動やカリキュラムを省察し，両者にとってより意味のある活動になるよう連携を重ねている

- ・レベル4からレベル5への段差

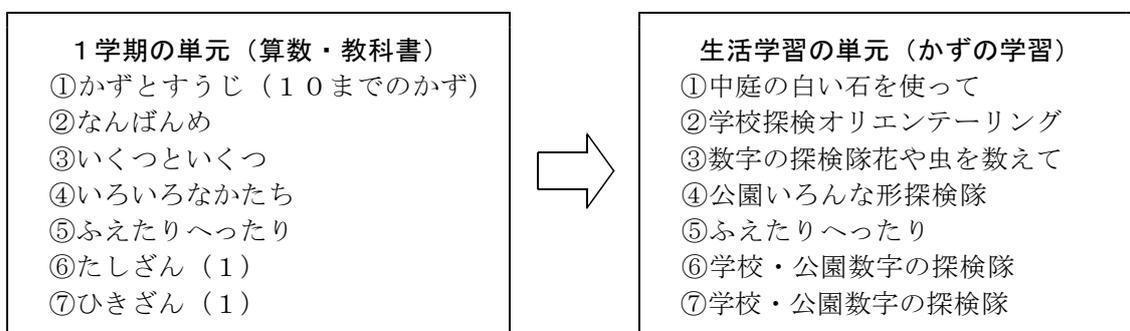
#### 6. その他（連携を進めるために）

- ・P P C C Principal, Partner, Curriculum, Community
- ・小学校 煩雑な校務，多忙感 なぜ連携を？
- ・連携カリキュラムの作成（いつでも誰でも簡単にできるカリキュラム）
  - (1) カリキュラムをつくる
  - (2) 合同活動を実践する
  - (3) 幼児教育の原理や方法を学ぶ
  - (4) 小学校教育の改善
- ・幼児期に育っている力 ※資料4
- ・小学校1年単元構想例（4・5月） ※資料5
- ・本年度の幼小合同活動
- ・保護者への理解と啓発

## ※資料 1 1年生の実践例 「かず」の学びについて

4月の学校探検で見つけた中庭の白い石を使って学習を構成した。教科書では、“5までの数”を学習する時期である。白い石を並べて遊んでいたら、花壇の縁に貼られているタイルの上に並べ始めた。石とタイルの1対1の対応である。並べ始めたら、「僕は10個並べたよ」「私は20個並んだよ」と数は増え、最終的には協力して100個以上の石を並べる活動となった。“100までの数”は、3学期の学習内容にあたる。同様に、“10までの数”“なんばんめ”“いくつといくつ”“たしざんとひきざん”の内容も白い石を使って学習した。

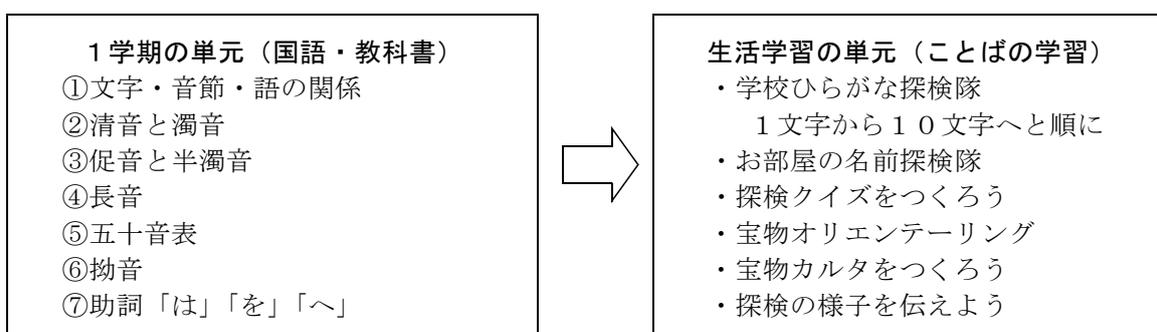
公園探検では、花や虫、宝物などを使って「蝶々が5匹いました。後から2匹きました。あわせて何匹でしょう？」のようなたし算やひき算の問題をつくった。また、「クーバーは三角だね」「休憩所の屋根も三角だよ」など、見つけたゴミ箱やベンチ、植物や木、休憩所の屋根などを形に見立てて“いろいろな形”の学習を展開した。他にも、公園探検で見つけた虫や動物になって動いてみる体育の身体表現、見つけたものでリズムを打つ音楽の学習、宝物や楽しかった活動を絵で表す図工の学習、自然の大切さや公園でのマナーなどを学ぶ道德の学習も同時に行った。



## 「ことば」の学びについて

ことばの学習は、子どもの興味関心とひらがなの学習とが結びつくように構成した。学校探検で見つけた「あり」から「あ」と「り」を書いたり、「はな」から「は」と「な」と書いて学ぶ。ひらがなの文字数を1文字「め」から始め、2文字「みず」、3文字「ろうか」、4文字「かいだん」のように1文字ずつ増やしながら、探検した部屋の名前「としよしつ」「きょうかんしつ」「しちょうかくしつ」なども学んでいく。最終的には10文字程度まで行い、探検をしながら、必然的に清音・濁音・促音・拗音などの内容も早い時期から学ぶことが可能になる。

また、公園探検で見つけた宝物で公園カルタをつくるようにした。覚えたひらがなを駆使して五七五の俳句を作り、取り札の絵札とセットにして手作りカルタをつくって遊んだ。



※資料 2-① 1年生の実践例 5歳児と1年生による「たんけんカルタ」

11月の生活科「たんけんカルタ」を一緒に経験した。カルタをつくって遊ぶ活動だが、ひらがなに触れたり、五七調のリズムに慣れたりすることもねらいに含まれていた。

まず、カルタの取り札にする題材を探するため、1年生と一緒に幼稚園を探検した。幼児は探検バッグや宝物を記入するワークシートに興味を示し、1年生と手をつないで、幼稚園にある様々な対象の中からお気に入りの宝物を選んだ。見つけたものを記入する際には、1年生に鉛筆や消しゴムなどをかしてもらったり、ひらがなを教えてもらったりする姿が見られた。

次に、見つけた宝物を題材として俳句を書いた。幼児にとっては初めての経験となる。「俳句ってなあに?」「五七五ってなあに?」と1年生に質問しながら読み札となる下記のような俳句をつくることができた。一緒に言葉を選んだり吟味したりする活動を通して、互いにじっくりとかかわることができた。

はむすーたは ひまわりのたね おいしいね  
 ビィダマは ころころころこ ころがるよ  
 どんぐりは 山からおちて くるんだよ  
 ピアノのめいろにつられ いえにはいる  
 トランプリン ふわふわふわと おもしろい  
 つみきは いろんなかたちでできる すごい



取り札は宝物を描いた絵、読み札は宝物からつくった俳句である。どちらの札とも、方眼紙の工作用紙でつくった。数の学びとしては、方眼を数えて用紙を切り取る大きさを決めたり、読み札を書く位置や大きさ、文字数など決めたりする姿が見られた。

「ふだの横の長さは四角が6つで、たての長さは12だよ。」と数え合っただけの札作りであった。一方、言葉の学びとしては、「ここでつかうわは、(は)じゃなくて(わ)だよ。」「ここは、(お)じゃなくて(を)をかくだよ。」のような会話が生まれ、協力し合っただけの読み札をつくる姿が見られた。幼児だけでは難しい活動だが、1年生に教えてもらいながら見よう見まねでカルタをつくり、下記のようなエピソードも見られた。



1年生が鉛筆をかしてあげる。「こんなのといっしょ。この字ちがうよ。」 直すようにする。  
 「しんぶんしまでかけとったでえ。はみだしてもいいよ。しんぶんしのなかってしたらいいよ。」  
 園児 困ったまま… 1年生「裏はかけとんよ。これといっしょ。しんぶんしの…までかけとんやけん。なかってつづけたらわ。」 園児 ○○を数える。 やっと書き出す。  
 〈読み札〉 ハムスター しんぶんしのなか かくれんぼ  
 〈読み札〉 ハムスター わたのなかで ○○○ 「たりなくてもいいんよ。」  
 消しゴムかしてあげる。 ハムスター わたのなか すやすやねむる  
 他の子どもや先生の様子が気になるが、園児のそばから離れない。 ハムスター ……

カルタができあがったペアから一緒に遊んだ。「とる前は手を頭の上ののせておこう」「幼稚園の子はおてつき1回はセーフ…」など、自分たちでルールを相談してのカルタ取り大会である。「今度はわたしが読みたい。」という幼児もいて、読み札読みを交代する場面も見られた。協力して楽しく遊んでいる姿が見られた活動場面であった。

5歳児になると幼稚園での生活を満喫しながらも、少なからず小学校への憧れや不安を抱き始める。幼稚園から小学校へとなめらかな接続をはかるためには、小学校の生活を視野に入れた保育も大切となる。それぞれのねらいや目標がそこなわれないようにすることが大切である。招待する、訪問するような関係ではなく、一緒に遊ぶ、一緒に活動する、一緒に学ぶのように、お互いに学び合える関係でなければならない。時間や空間、イメージを共有したり、関係性を通して学んだりしながら、数や言葉についての認識を深めたり、お互いを理解し関係を調整したりする力を育むことが求められている。

### 「おもしろカレンダー」

1年生9月の算数「20までの数」を一緒に体験した。カレンダーをつくることで、数の規則性や意味、曜日などの言葉も学ぶ。幼稚園の遊戯室で学習を行ったところ、興味を持った幼児が関わり始め、一緒にカレンダーをつくった。

つくっている様子を見たり、わからないことをペアの1年生に教えてもらったりしながら、1週間が7日間であることや、日曜日から始まること、月によって日数が違うことなどを実感として学び、カレンダーを仕上げる事ができた。1年間のうちで好きな月を選び、カレンダーに絵を描いたのだが、幼児も誕生日や思い出の旅行、運動会や秋の木々などの絵を描いた。なるほど、月（数字）と自分の生活や興味が結びついている。子どもにとってカレンダーの数字は単なる数字ではない。嬉しくて仕方のない日、待ちに待って訪れる日、思い出いっぱいの日なのである。数字をこのように意味づけられるのは、発達によるものなのだろう。必然的に数字を学べた活動になった。



### エピソード「アイは13月のつくったの」

「アイは13月のつくったの。」  
 「ふーん。でも、13月はないよ。12月まで。」  
 「いや、アイのは13月がいいの。」  
 「12月の次って言う意味？」「うん13月。」  
 「それだったら、1月のこと」「へえー。1月？  
 アイなんだか頭がぐるぐるしてきちゃった」  
 「日がめちゃくちゃだよ。ぼくは5月だから、  
 前に貼ってある1月のカレンダー見てこよう。  
 1がどこから始まっているか。」 「うん。」  
 二人は見に行き、帰ってきました。



二人の会話から、幼児がうまく1年生にかかわってもらっていることが伺える。春と一緒にザリガニトりに出かけた時には、わかりあえずお互いに困っている様子だった。それがペアを組んで様々な活動を繰り返すうちに、9月にはこのような関係性を保が見られるようになった。幼児の望んでいることや学ぼうとしていることなどを受け入れてもらいながら、仲良くカルタをつくっている。二人の関係に信頼感や安心感のようなものが芽生えたに違いない。このような姿に、幼小連携の意味を見いだすことができる。

### ※資料3-① 合同活動実践例 5歳児と2年生による「がっこうたんけん」

2年生とのペアで俳句探検隊を行った。小学校のグループ学習室で、俳句探検の導入を終えた後、担任していた5歳児のハナがまず最初に向かった先は体育館だった。体育館からは、5年生の演奏する音楽が聞こえていた。小学校では毎年2月末に開かれる卒業生お別れ音楽会の練習の最中であり、会場となる体育館で合奏の練習に取り組んでいた。担任は小川先生で、児童の前に立って指揮をしていた。ハナは、普段から音楽好きで幼稚園の教室でもよくピアノを弾いている子どもであった。最初は演奏の様子を他の幼児たちと一緒に体育館の入り口あたりで見守るだけだったが、身体を揺らせてリズムを刻んでいる様子が伺えた。

「もっと近くに行ってみる？」と誘うと、嬉しそうに、「行ってもいいの？」と尋ねた。「もちろんいいよ」と返すと、「行く」と言って体育館の中に入って行った。近くまで行ったハナは、小川先生の指揮に合わせて右手を動かし指揮の真似を始めた。小川先生もその様子に気付いているはずが、指揮を止めずにずっと演奏を続けていた。もちろん、5年生たちもハナに驚いた様子はなく、小川先生の指揮に合わせて演奏を続けていた。

気がつくともハナは、小川先生のすぐ隣で指揮をしていた。もちろん、4拍子の指揮の仕方を知るよしもなく、音楽に合わせて自由に手を動かしていた。すると、小川先生がおもむろに指揮台を下り、ハナの腕をもって4拍子の指揮の仕方を教えてくれたのだった。声をかけるでもなく、言葉を交わすでもなく、無言の動作でハナの腕を持ち、優しく導いてくれた。腕を添えられて何度か一緒に振ったハナは動作を理解し、小川先生が手を離しても4拍子のリズムを刻んでいた。

一緒にいた2年生のヒカりはハナのすぐ横に立って、ハナの動きを見守っていた。自分自身は指揮をしようとせず、ハナの動きに合わせて笑顔で声をかけていた。しばらく指揮をしたハナは、その後、演奏をしているステージ横に移動し、持っていたワークシートに俳句を2つ書いた。そして幼稚園の教室に戻ったハナは、降園前の紹介コーナーで、「わたし、しきしゃになったの！」と、つくった俳句を紹介しながらその時の様子を学級の友達に伝えたのだった。

たいいくかん ひろいおへやだ おんがくだ  
おんがくは ながれるおとが きれいだね

本校・園では、常にこのように幼児と1・2年生と一緒に学校探検をする姿が見られる。上級生の教室に入れてくれたり、学習に参加させてくれたりする自然な空気が流れている。

本合同保育／授業は2月に行われたものであり、ハナにとっては春から何度か訪ねた小学校である。音楽を聞いて迷わず体育館に行ったり、最初は躊躇したもののがすぐに5年生の小川先生と一緒に指揮ができたのも連続的な繰り返しがあったからにはほかならない。小学校で活動した時間が確実にハナの中に息づいていると言えるだろう。ハナが誇らしげに5年生の前で堂々と指揮をしていた姿をわたしは忘れることができない。

連携の時間は、ハナばかりか演奏を止めずに指揮を続けた小川先生や5年生の子どもたちにも息づいている。本校園では、このような学校探検が年間を通して繰り返されているので、その姿を全校児童・全教職員が目に見ている。校内で活動する幼児の姿が当然のことになっているので、特別に学習

を中断したり説明を求めたりするようなことはない。更に付け加えると、5年生の子どもたちの半数もかつては同じように連携の活動を経験し上級生にあたたかく受け入れてもらっているのです。立場が入れ替わっても優しく見守ってくれる。上級生の中にも、連携の時間が流れているのである。また、小川先生もかつて一緒に1年生を担当した間柄である。学校全体が連携の時間や空間を共有することができていると言えるだろう。

それまでの連続的な学校探検等の活動でハナは多くのことを学んでいる。幼稚園の遊戯室よりはるかに大きな体育館、広くてたくさんの先生方がいる職員室、たくさんの本が並んでいる図書室、おやつの部屋の何倍もある給食室等、いつもの幼稚園とは違う小学校を体感し、イメージとして蓄積されていく。しかも、今回の体育館での音楽のように、小学生の学ぶ姿や学んでいる内容をわくわく感やドキドキ感とともに身体全体で吸収し、音楽の楽しさや集団で学ぶことの意味なども感じる事が可能になる。小学校の小川先生に手をとって教えてもらった経験は、指揮の仕方や4拍子のリズム、音楽の心地よさなどにとどまらず、人とかかわることの楽しさや喜びも学んだに違いない。それはハナが体育館で書いた俳句にも表れている。

まさにハナにとっての出来事は、大きなコンサートホールでオーケストラの指揮をしているように感じられたことだろう。指揮を終えた後、体育館のステージ上で俳句をつくっていたハナの笑顔を今でもはっきりと覚えている。

このようなエピソードが生まれた背景には、やはり、何度も学校探検や小学校との交流活動から生まれた安心感や所属感があったからに違いない。普段から「どこへ行ってもいいんだよ」「目と目で合図したら大丈夫だよ。入れてくれるよ」などと声をかけてはいたが、単に言葉にとどまらない受け入れてもらえる体験がハナに自信や勇気をもたらしたと言えるだろう。そしてそのことが自分を認めてもらえる自己肯定感につながり、指揮をした経験が成就感や満足感となってハナの中に蓄えられ、更なる安心感や所属感を生み出すことへとつながっていく。まさに連携活動ならではの意味がこのエピソードにたくさん込められているように思えた。

探検の途中で5年生の演奏に出会うことは偶発的に起こった出来事である。しかし、継続的な連携を進めているからこそ出会えた偶発でもある。本事例から連携のこつをあげるとするならば、やはり継続することの大切さになるだろう。継続は偶発を必然に変える力をもっているのではないか。



### ※資料 3-② 合同活動実践例 5歳児と1年生による「おもしろハウジング」

集めた牛乳パックで家をつくって遊ぶ活動である。

写真はつくり始めて暫くたったところである。最初、どんな家をつくるかを相談したところ、グループごとに部屋を分担してつくることになった。玄関、居間、食堂、寝室、風呂、トイレ、前庭、廊下などのグループができた。この活動ではたくさんの牛乳パックを必要としたので、2ヶ月くらいかけて協力して牛乳パックを集めた。



毎日、少しずつ登校時に子どもたちが牛乳パックを持ってきた。牛乳パックがたくさんになってくると、とても一桁の計算ではすまなくなる。1班が78で、2班が89だと、78と89で157と計算もする。もちろん、まだ1年生の11月なので二桁の足し算は教科書に出てこない。それでも、自分たちが集めた牛乳パックを数えていると、難しい計算にも意欲的にチャレンジする。計算をまちがうこともあるが、その都度、担任であるわたしと一緒に、楽しみながら数えたり計算をしたりした。

もっと多くなると、三桁の計算にも挑戦した。153と99で252という具合である。どうみても、2年生か3年生の内容になるが、自分たちで懸命に計算に挑戦した。当初は、「100までの数」を想定した単元だったが、実際にやっているのと、それ以上の計算をすることになった。

写真は、幼稚園の保護者に、ポスターを見せながら牛乳パック集めの協力を依頼しているところである。「まだちょっと足りないなあ。」と相談したところ、ポスターをつかって、幼稚園の保護者や上級生、先生方に協力をお願いすることになった。

ポスターを描くことで、図工の学習が成立する。実際に分担して上級生のクラスを訪ね、「給食の牛乳パックを集めておいて下さい」とか、「おうちに牛乳パックがあれば、もってきて下さい」のようなお願いをした。上級生や保護者にポスターを説明することで、表現力やプレゼンテーション能力も同時に養うことが可能になる。単に牛乳パックによる家づくりなのだが、総合的に様々な教科の力を育てられるようになった。当時「おさかな天国」の歌が流行していたのにちなんで、「おうち天国」という歌もつくて、振り付けも自分たちで考えて楽しく踊った。



最終的に牛乳パックを1個1個数えながら、100個ずつ袋に入れるようにした。途中、数えられなくなったり、まちがえたりしながら、100個ずつの袋を60個つくることができた。100までの数どころか、6000まで数えてしまうことになった。「1000までの数」というのは、2年生で学習する内容である。部屋に積み上げられた6000個の牛乳パックを見て、「これが6000個か！」という感嘆の声をあげていた。実感として6000という数字を捉えたのだと思う。

#### ※資料4 幼児期に育っている力 (5歳児・保育記録の分析より)

平成18年4月10日(月), 始業式当日の保育記録を分析したものである。実感として, これらは8割前後の幼児が概ねできていることだと思えた。カテゴライズが可能では…。

##### 朝の出会いと遊びより

- ・自分の名前(平仮名表記)がわかり, ロッカーや靴箱に持ち物の整理ができる(しようとする)。  
※以下全て, できる(しようとする)とする。
- ・経験から, 靴や帽子, 連絡帳や上靴(物の操作)など, 所定の位置に片付けることができる。
- ・片付けるという言葉の意味を理解(言語理解)し, 自分の持ち物を操作することができる。
- ・新しいロッカー(環境の変化)に気づき, 持ち物等の操作が対応できる。
- ・初めてあった先生や友達(人への関わり)とも関わるができる。
- ・わからないことに出会った際, 人に尋ねる(表現・コミュニケーション:C)ことができる。
- ・連絡帳の日付(数理解)がわかり, シールをはるることができる。
- ・課題(名札付け)に出会った際, 自分で出来ることは自分でしようとする(意欲・態度化)。
- ・友達とかかわって遊ぶ(コマ回しや折り紙他・友達との関わり)ことができる。
- ・色紙の使用(価値判断)ができ, わからない時は先生に尋ねる(表現:C)ことができる。
- ・遊びに必要なもの(色紙, テープ, はさみ他)を取捨選択(情報選択と活用)し, 必要な物を使って遊ぶことができる。
- ・はさみを使って, 紙や段ボール, ビニルテープなどを切ることができる(技能)。
- ・平仮名に興味を示し, 自分の名前を書いたり, 遊びの中で文字を使用したりすることができる(文字表現)。

##### 遊戯室でのリズム遊びより

- ・廊下に静かに並ぶ(できれば出席等の順番を考えて:数や前後の人の理解)ことができる。
- ・トイレに自分で行き(自立), 使用したスリッパの整理ができる(生活習慣)。
- ・話している先生の前に集まり, 先生を見て話を聞く(聞く:言語理解)ことができる。
- ・リズムを聴いて(聴く), 楽しんで身体を動かす(身体表現)ことができる。
- ・全体の雰囲気を感じたり(感じる力:理解)味わったりして, 友達と仲良く遊ぶことができる(関わり)。
- ・拍や拍の切れ目を理解(聴く・拍の理解)し, 身体を静止させたり動かさせたりできる(身体調整・技能)。
- ・スキップやけんけんなどができる(身体技能)。
- ・寝そべったままで自分の身体をスムーズに回転させることができる(技能)。
- ・友達の動きを見て(見る・模倣), 自分の動きを調整することができる(身体調整)。
- ・先生の発した言葉を聞き取り(聴く), 同じ言葉を言う(話す)ことができる。
- ・先生の行った動作を見て(見る), 同じ言葉を繰り返し行うこと(表現:模倣)ができる。
- ・動物や狩猟, 鉄砲などをイメージ(イメージ)して身体表現ができる。
- ・1から10までの数字を理解(数理解)し, 求められた人数のグループをつくることができる(態度化)。
- ・グループに入りそびれても(関わり), 落ち込んだりへこんだりせずに気持ちを切り替えて(自己調整)遊びを続けることができる。
- ・学級の友達の前で, 安心して話したり(話す), 動いたりすることができる(自己表現)。
- ・途中でトイレに行きたい場合, 先生に伝えて行くことができる(話す・C)。

学習計画(48時間)			
学習活動	子どもの意識の流れ(□は教師の働きかけ)	支援	資質・能力
<p>1 幼稚園での生活や体験を振り返り、小学校での遊びや活動について話し合う。(1時間)</p> <p>2 学校や幼稚園で、様々な探検活動や表現活動をする。(43時間)</p> <p>(1) 探検をしながら言葉や数について考えたり表現したりする。</p> <p>(2) 探検をしながら歌ったり絵を描いたり遊具で遊んだりする。</p> <p>(3) 探検をしながら学校生活について話し合ったり尋ねたりする。</p> <p>3 オリエンテーリングの準備をする。(2時間)</p> <p>(4) グループやみんなで相談して、オリエンテーリングの方法やチェックポイントを決めたり、デジタルカメラで撮影したりする。</p> <p>4 園児と一緒にオリエンテーリングをする。(2時間) 本時1/2</p> <p>(5) 園児や友だちと一緒にオリエンテーリングをする。</p>	<p>学校にはどんなものがあるんだろう？幼稚園とよく似た部屋もあるのかな？</p> <p>学校たんけんをしよう。</p> <p>この部屋は何をする部屋だろう？</p> <p>体育館の隣が幼稚園だね。</p> <p>教官室に先生がたくさんいたよ。</p> <p>購買にはいろんなものがあるね。</p> <p>探検の歌をつくろう。</p> <p>新しい遊具で遊ぼう。</p> <p>ひらがなたんけんたい ⑩</p> <p>かぞえてみようたんけんたい ⑥</p> <p>おへやの名前たんけんたい ②</p> <p>2年生と学校たんけんたい ③</p> <p>ようちえんたんけんたい ③</p> <p>オリエンテーリングをしよう ⑤</p> <p>2年生と一緒に探検はたのしかったね。幼稚園のお友だちと一っしょにやりたいな。</p> <p>なかよしオリエンテーリングをしよう。</p> <p>こい うさぎ ほけんしつ こうばい 先生 陽気な3人組</p> <p>保健室を紹介したいな。</p> <p>幼稚園にも鯉がいるのかな？</p> <p>デジタルカメラで撮影しよう。</p> <p>数のお勉強もできるかな？</p> <p>さあ、オリエンテーリングに出発だ。</p> <p>たくさんの鯉やうさぎを見つけたよ。</p> <p>保健室は何番目に訪ねたのかな？</p> <p>きょうかんしつってどう書くんだろう？</p> <p>陽気な3人組って何だろう？</p> <p>チェックポイントを10カ所いけたよ。</p> <p>〇〇先生に会ったから挨拶をしたよ。</p> <p>いろいろなものを発見したよ。</p> <p>城山公園でもオリエンテーリングをしてみたいな。</p>	<p>◁幼稚園で遊びや活動を思い出し、興味をもって学校探検ができるようにする。</p> <p>◁個人やペア、グループなどで、自由でのびのびとした探検や活動ができるよう見守る。</p> <p>◁ワークシートを活用することで、気付きや発見、学びなどを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>◁一人一人の思いや気持ちを大切に、楽しく安心して活動や表現などができるような雰囲気作りをする。</p> <p>◁気付きや発見から紹介する場所やチェックポイント決めることで、想像力を働かせたり、思考を深めたりできるようにする。</p> <p>◁個人やグループで情報交換の場を設け、オリエンテーリングの約束やルールが決めやすいように支援する。</p> <p>◁自分で撮影した宝物の写真を活用し、考えたり振り返ったりできるように支援をする。</p> <p>◁活動の様子を見守り、困っている子や悩んでいる子には、質問や対話をする中で言葉の表出を促すようにする。</p> <p>◁探検活動で記録した生活ブックを使用することで、探検の様子を思い出せるようにする。</p>	<p>○興味や関心をもって、学校探検の見通しを立てたり主体的に取り組んだりする。(学習意欲) (学習構想力)</p> <p>○遊びや探検活動での気付きや発見、様子などを自分なりにまとめ、伝えたり表現したりする。(問題発見力) (情報活用能力) (自己表現力)</p> <p>◆学校と生活 ◆自分の表現 ◇環境・言葉・健康</p> <p>○発見したことや観察したこと、心に強く残っていることなどを書く。(自己表現力)</p> <p>○活動の見通しを持って、オリエンテーリングのチェックポイントを作成する。(学習構想力) (問題発見力)</p> <p>●語と語や文の続き方や調子に気を付けて書くこと。 ●長さや大きさについて比べた経験を用いて、比較する。(情報活用能力)</p> <p>●問題の個数を数える活動を通して、20程度までの数について理解する。</p> <p>◆言葉と数 ◇環境・言葉・表現</p> <p>○自分の紹介したい場所と友達との場所を比較しながら見たり聞いたりする。(自己評価力)</p> <p>○オリエンテーリングと一緒に遊ぶ活動を通して、自分や友だちのよところや成長に気付く。(学習意欲) (自己評価力)</p> <p>◆自分の表現・成長 ◇言葉・人間関係</p>